

第53期年次報告書

平成18年4月1日～平成19年3月31日

株 主 メ モ

事業年度 4月1日から3月31日まで
基準日 定時株主総会 3月31日
剰余金の配当 期末 3月31日
中間 9月30日

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 〒530-0004 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号
(お問合せ先) 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
電話 0120-094-777(通話料無料)

同 取 次 所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店
株式関係のお手続き用紙のご請求は、以下の三菱UFJ信託銀行の電話
およびインターネットでも24時間承っております。
電話(通話料無料)：0120-244-479(本店証券代行部)
0120-684-479(大阪証券代行部)
インターネットホームページ：http://www.tr.mufg.jp/daikou/

公 告 方 法 電子公告
ホームページ
http://www.soft99.co.jp/ir/koukoku.html
電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは日本経済新聞に掲載いたします。
※当社の貸借対照表、損益計算書はEDINET
(証券取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム)にて開示しております。

単 元 株 式 数 100株
上場証券取引所 株式会社東京証券取引所市場第二部
インターネットホームページ http://www.soft99.co.jp

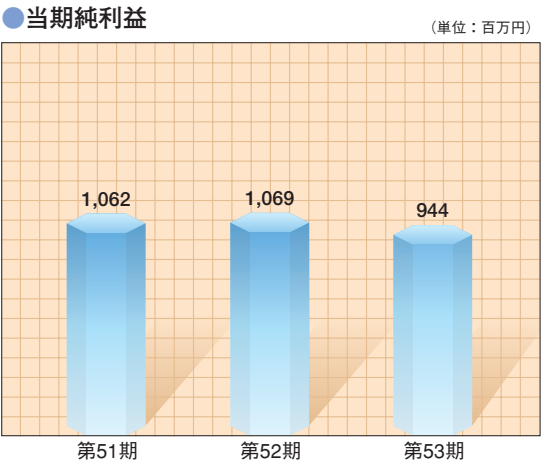
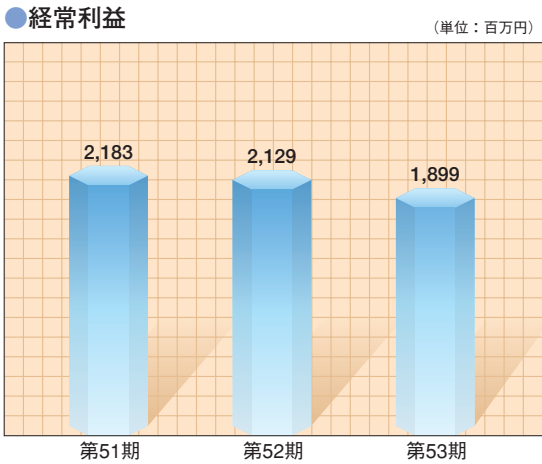
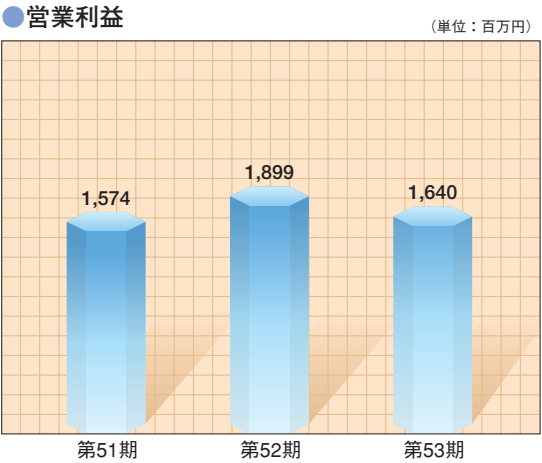
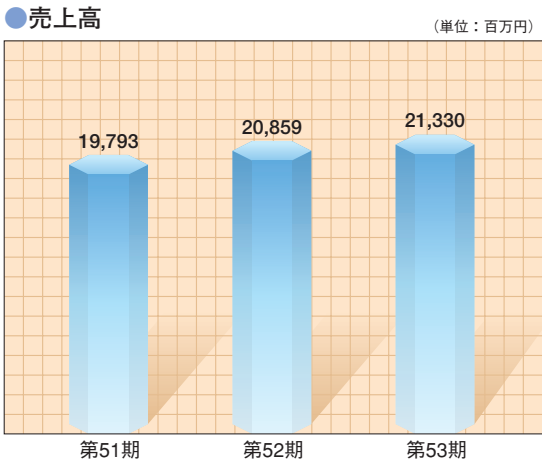


SOFT99は、
「クルマ」と「暮らし」の
輝きを創造する企業グループを目指します。

代表取締役社長
橋 本 眞 三

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。
さて、わが国の経済は、原油高や素材価格の高値安定傾向に加え、金利上昇などの影響を懸念しつつも、堅調な企業業績による設備投資の拡大や雇用環境の改善等により、景気は拡大傾向にあります。
しかしながら、小売業界及びサービス業界においては、業種・業態を越えた競争の激化や、消費者物価低迷の状況は依然として続いております。このような経済状況の中、当社グループは、常に前向きに挑戦し続け、環境の変化にしっかり対応していくため、各事業においてそれぞれの特色や技術を活かしたオンリーワン製品、高品質なサービスの提供をもって消費者ニーズに応え、「クルマと暮らしの輝きを創造する企業グループ」を目指して事業活動を展開してまいりました。
当社を中心にカー用品の製造販売を行う製品販売においては、自動車に対する価値観が変化して、市場の縮小傾向は継続するなか、当社の代表ブランド「ガラコ」は、多雨等の要因もあり好結果を残し、また「エアータッチ」に牽引されて補修製品の展開店舗が増加し好結果を残したものの、暖冬の影響でタイヤチェーンの販売が振るわず、年度末に計画を大きく上まわる返品が発生するなど厳しい経営環境は続きました。
しかしながら、当社独自の機能性薄膜技術を用いた自動車用コーティング剤「ビューティフルG'ZOXリアルガラスコート」が自動車美装業者の間で認知が進み、ブランド構築がすすんだことや、家庭用品の新製品「メガネのシャンプー」が消費者の支持を受け好調に推移するなど、近年取り組んできた事業構造の変革は徐々に成果を上げつつあります。
一方で、関西地区でスーパー銭湯を4店舗運営する温浴事業においては、平成17年12月にオープンした吹田店の通年寄与により、売上は伸長いたしました。ブームに乗じて競合店舗の出店が相次ぎ、既存店が苦戦し、減益となりました。
また、PVAの多孔質体の特長を活かした製品を手がけるポーラスマテリアル事業において、原料の調達難から農業資材部門の撤退を余儀無くされ、減収減益となりました。
これらの結果、当期の連結売上高は213億3千万円、営業利益16億4千万円、経常利益18億9千9百万円、当期純利益9億4千4百万円となり、前年同期に比べ増収減益となりました。
今年度は中期経営計画“Spiral Up'05”の最終年度となりますが、激変する事業環境の中、業績諸目標において当初計画を見直さざるを得ない厳しい状況になってまいりました。しかしながら当初掲げた目標は当面当社が目指すべきステージであるにとらえ、真摯に取り組む続けていきたいと考えております。今後につきましては、次期中期経営計画の策定においてその意志を反映し、人々に驚きや感動を与える企業集団であるべく、人材、技術開発力、営業力、財務力といった経営資源を更に有効に活用しながら企業価値の向上に努めていく所存です。
株主の皆さまには、今後ともご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成19年6月



平成19年4月、 ソフト99オートサービスが 新体制でスタート

外車ディーラーからの事故車両の修理受託で磨かれた高品質な、钣金塗装の技術とその信頼を軸に、都市立地を生かした車検整備とリース・レンタカーまで幅広いカーソリューションサービスを提供いたします。

ソフト99オートサービスは、高いレベルの作業品質を求められる外車ディーラーからの钣金塗装の受託を営むボディサービス部門（旧中橋钣金塗装㈱）と法人向けに車両リース、マンスリーレンタカーを組み合わせた車両運用ソリューションを提供するオートサービス部門（旧㈱ソフト99オートリース）を中心に損保会社からの事故修理の紹介誘導による钣金塗装を事業とする東和自動車㈱を新たに合併し平成19年4月より新しい体制をスタートいたしました。

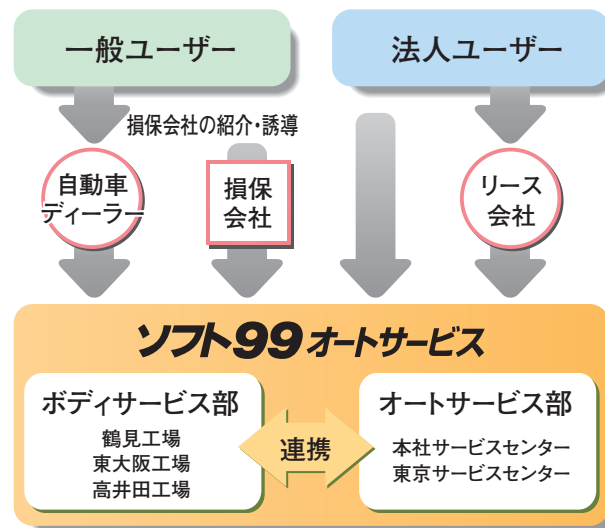
新生ソフト99オートサービスは従来のディーラーの受託という枠を越え、損保会社とのタイアップによる紹介誘導や、大阪市中央区や東京都墨田区といった都市立地を活かした法人向けのリースと修理・点検を組み合わせた、総合車両管理サービスを通じて事業を拡大してまいります。

株式会社 **ソフト99** オートサービス



事業所

本社：大阪市中央区内淡路町3-1-3
 鶴見営業所：大阪市鶴見区今津北1-1-15
 東大阪営業所：東大阪市福田新町3-10-26
 高井田営業所：東大阪市高井田14-4
 東京営業所：墨田区文花2-13-2
 千葉営業所：千葉市若葉区みつわ台5-36-19



事業部門の紹介

ボディサービス部門

高級外車ディーラーからの高品質な钣金塗装の受託を主な事業としており、レーザーアライメントテスターなどの最新鋭の設備を他社に先駆けて導入し、更なる技術力の向上を目指します。

平成17年には、東大阪工場が、近畿圏の钣金塗装工場として初めてISO9001を取得するなど顧客の信頼の向上に努めてまいります。



オートサービス部門

法人向けの車両リース・レンタカーと車検整備や修理を組み合わせ、お客様のニーズに最適な車両運行管理ソリューションを提供しております。

本年4月より、損保会社からの事故修理の紹介誘導を事業とする東和自動車㈱を統合し、今後は損保会社と連携した事故車両の入庫誘導をすすめ、信頼の技術に裏付けられたボディサービス部門と連携して、新しい需要開拓を目指します。



最新設備を導入した自社工場。分業体制に基づいた高い稼働率で、高品質且つ迅速な納車を実現。

新事業への取り組み

平成18年の道路交通法の改正により、違法駐車取締強化と飲酒運転の罰則強化が始まり、事故件数は確実に減少しております。

そのような事業環境の変化をチャンスととらえ、コーティング施工ビジネスを本格的にスタートいたしました。

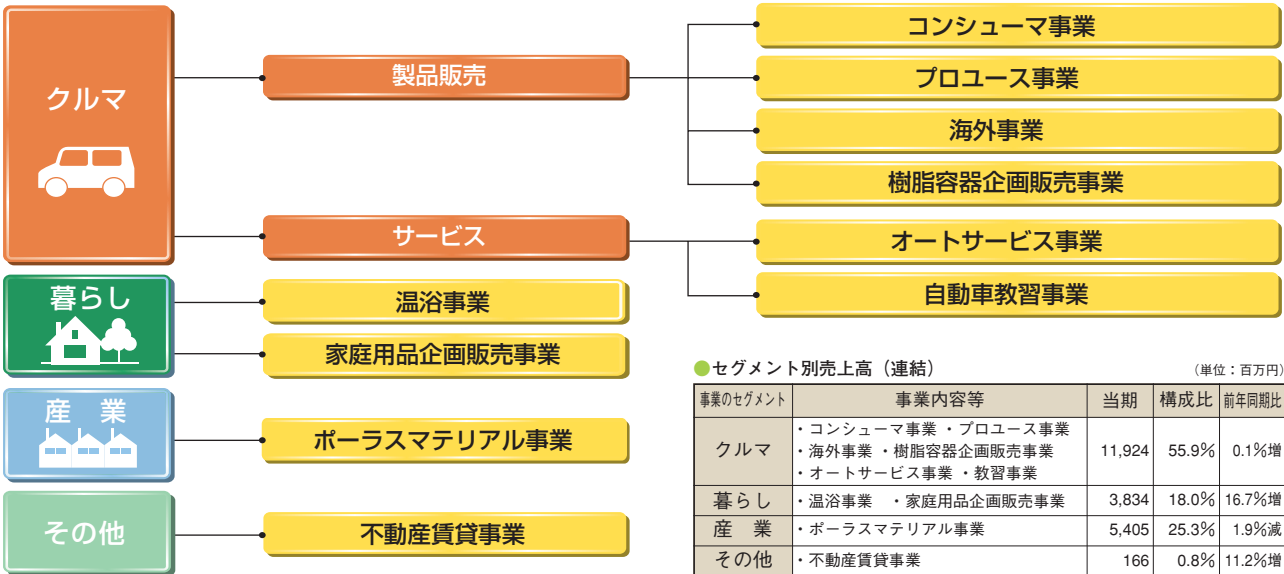
平成18年7月に東大阪市にコーティング施工の専用工場を配置し、新車をメインとしたコーティングは、㈱ソフト99コーポレーションのG'ZOXリアルガラスコート品質と相まって着実に施工台数を増やしており、グループシナジーを発揮しつつあります。



【コーティング専用工場】
コーティングの品質を高めるため、クリーンな施工環境と十分な光量を確保した、コーティング専用工場です。



SOFT99は、「クルマ」と「暮らし」の
輝きを創造する企業グループを目指します。



●セグメント別売上高（連結）（単位：百万円）

事業のセグメント	事業内容等	当期	構成比	前年同期比
クルマ	・コンシューマ事業・プロユース事業 ・海外事業・樹脂容器企画販売事業 ・オートサービス事業・教習事業	11,924	55.9%	0.1%増
暮らし	・温浴事業・家庭用品企画販売事業	3,834	18.0%	16.7%増
産業	・ポーラスマテリアル事業	5,405	25.3%	1.9%減
その他	・不動産賃貸事業	166	0.8%	11.2%増

中期経営計画 “Spiral Up’05” 進捗について

平成17年度から拡大した関連会社を束ねるグループ経営体制の構築と、次の半世紀に向かって新たな経営のリーダーシップ強化のため、グループの経営理念、経営ビジョンを刷新し中期経営計画をスタートいたしました。

“Spiral Up’05”において目標としているものは業績目標のみならず、当社が市場より評価いただくために目指すステージと位置付け、効率諸目標や株主還元策等広範な分野にわたって目標を設定しております。

本中期経営計画におきまして、最終年度に掲げた目標に到達することは、厳しい状況になってまいりましたが、あくまでも当社が当面目指すべきステージととらえ、真摯に取り組み続けたいと考えております。

次期中期経営計画におきましては計画を見直し、この趣旨を十分に反映させチャレンジを続けてまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後ともご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

（単位：百万円）

	売上高	営業利益
2005年3月期 (Spiral Up’05 開始前)	19,793	1,574
2008年3月期(予想) (Spiral Up’05 最終年度)	22,000	1,900
増 減	2,207	326

クルマ

自動車業界におきましては、軽自動車の販売は好調なものの普通自動車の販売が低迷するなか、自動車販売店において、アクセサリー販売やコーティング施工などの取り込みが進んだことなどにより、自動車アフターマーケットは縮小傾向が続き、競争は激しく価格競争による販売単価の低下の影響を受けました。

製品販売におきましては、ボディケア商品において、新製品「カラーエボリューション」が好調に推移したものの大型の新製品に恵まれず、他の商品の落ち込みをカバーするには至りませんでした。一方ガラスケア商品では、ガラス撥水剤「ガラコ」が多雨の影響で好調に推移し、補修商品では、「エアータッチ」に牽引されて展開店舗が増加した結果好調に推移いたしました。しかしながら、暖冬の影響でタイヤチェーン「救急隊ネット」が期末に計画を大幅に上回る返品となり、カーケア用品では減収に終わりました。

家庭用品では、新製品の「メガネのシャンプー」が消費者の支持を受け、取扱い店舗が順調に拡大して売上も増加してきております。

また、美装業者向けの業務用商品においては「ビューティフルG’ZOXリアルガラスコート」のブランド認知が進み、ボディコーティング施工業者のネットワークや自動車販売店ルートへのOEM供給がスタートしたことにより売上が確実に増加してきております。

自動車教習事業におきましては、平成19年に予定される大型免許の法改正に伴うコース改修工事による影響で、第3四半期までは営業縮小を余儀なくされ収益は低下しましたが、工事終了後には、法改正前の駆け込み需要や、早朝営業などサービスの改善に取り組んだ結果、第4四半期には過去最高の売上を記録しました。しかしながら、前半の落ち込みをカバーするには至りませんでした。

法人向け自動車リースと整備・鈑金塗装を組み合わせたオートサービス事業におきましては、リースの大口顧客の経営破綻や、道交法の改正による駐車違反や、飲酒運転の取り締まり強化の影響で事故数が減少するなど厳しい経営環境が続きましたが、リース得意先の小口分散化と整備・鈑金の営業体制強化に取り組み、新規得意先開拓や損保会社からの入庫の拡大、工場稼働体制の改善やサービスの向上により、整備・鈑金の受注台数が増加いたしました。

これらの結果、当連結会計年度におけるクルマ事業部門の売上高は11,924百万円（前年同期比0.1%増）、営業利益は472百万円（同5.6%減）となりました。

暮らし

スーパー銭湯を運営する温浴事業におきましては、平成17年12月にオープンした吹田店の通年寄与により、売上は伸長しましたが、競合店の相次ぐ出店による競争激化により、価格優位性のあった東大阪店・枚方店において入場者数の減少等苦戦を強いられ、集客のための販売促進費の増加等により減益となりました。

生協向けに生活用品のチラシ企画及び販売をおこなう生活用品企画販売事業におきましては、生協の大型統合が進み、仕入先の見直しや販売協賛の依頼など厳しい経営環境が続きました。そのような中で、特徴のある新製品の開拓を進めた結果売上は伸長しましたが、低粗利率の商品の増加や販売協賛金の増加等により大幅に減益となりました。また、新規媒体の開拓として、当連結会計年度に新たにグループ化した㈱関西エムディ総研も売上高の増加に寄与いたしました。

これらの結果、当連結会計年度における暮らし事業部門の売上高は3,834百万円（前年同期比16.7%増）、営業利益は96百万円（同55.5%減）となりました。

産業

産業資材部門におきましては、上半期にデジタル家電業界の積極的な設備投資により、主力の電子部品洗浄用及び吸水用スポンジや液晶ガラスの洗浄に用いる長尺ローラーが順調に推移しましたが、下期に入ってその在庫調整の影響で苦戦いたしました。生活関連資材においては、PVA素材の特長を活かした用途開発を進めているなか、新製品「サモコンクール」が好調に推移しましたが、プラスセースと水泳関連商品の販売数の減少をカバーすることができませんでした。また、当連結会計年度に農業資材部門が事業を撤退したため、減収となりました。

これらの結果、当連結会計年度における産業事業部門の売上高は5,405百万円（前年同期比1.9%減）、営業利益は945百万円（同9.8%減）となりました。

その他

不動産賃貸事業におきましては、東京ビルのテナント収入の通年寄与により、売上高は増加しましたが、老朽化した社宅をマンションに建て替えたため費用が先行して発生した結果、当連結会計年度におけるその他事業部門売上高は166百万円（前年同期比11.2%増）、営業利益は122百万円（同6.3%減）となりました。

●連結貸借対照表

科 目	当 期 (19.3.31現在)	前 期 (18.3.31現在)
資産の部		
流動資産	12,260	12,552
現金及び預金	5,825	5,819
受取手形及び売掛金	3,184	3,242
有価証券	598	899
たな卸資産	1,936	1,833
その他	715	757
固定資産	32,499	32,060
有形固定資産	24,366	24,141
建物及び構築物	6,824	6,275
土地	15,413	15,413
その他	2,128	2,452
無形固定資産	372	405
のれん	140	18
その他	232	387
投資その他の資産	7,761	7,513
投資有価証券	5,985	5,819
その他	1,776	1,694
資産合計	44,760	44,613

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。
前期につきましては、会社法施行後の科目にて表示しております。

(単位：百万円)

科 目	当 期 (19.3.31現在)	前 期 (18.3.31現在)
負債の部		
流動負債	2,814	3,151
支払手形及び買掛金	1,112	1,048
短期借入金	40	40
未払金及び未払費用	990	1,067
その他	671	996
固定負債	2,187	2,211
長期借入金	0	2
退職給付引当金	873	886
長期未払金	70	85
その他	1,243	1,237
負債合計	5,002	5,363
純資産の部		
株主資本	39,195	38,610
資本金	2,310	2,310
資本剰余金	3,116	3,116
利益剰余金	33,946	33,361
自己株式	△ 177	△ 177
評価・換算差額等	377	484
その他有価証券評価差額金	437	560
土地再評価差額金	△ 122	△ 122
為替換算調整勘定	61	46
少数株主持分	184	154
純資産合計	39,757	39,250
負債・純資産合計	44,760	44,613

●連結損益計算書

科 目	当 期 (18.4.1 から 19.3.31まで)	前 期 (17.4.1 から 18.3.31まで)
売上高	21,330	20,859
売上原価	13,843	13,264
売上総利益	7,486	7,595
販売費及び一般管理費	5,846	5,695
営業利益	1,640	1,899
営業外収益	301	311
営業外費用	42	81
経常利益	1,899	2,129
特別利益	78	89
特別損失	293	247
税金等調整前当期純利益	1,683	1,970
法人税、住民税及び事業税	741	906
法人税等調整額	△ 36	△ 47
少数株主利益(控除)	35	42
当期純利益	944	1,069

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

●連結キャッシュ・フロー計算書

科 目	当 期 (18.4.1 から 19.3.31まで)	前 期 (17.4.1 から 18.3.31まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,012	2,728
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,674	△ 955
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 345	△ 1,684
現金及び現金同等物に係る換算差額	5	18
現金及び現金同等物の増加額(又は減少額)	△ 1	106
現金及び現金同等物の期首残高	5,701	5,595
現金及び現金同等物の期末残高	5,699	5,701

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

●連結株主資本等変動計算書 (18.4.1から19.3.31まで)

(単位：百万円)

科 目	株主資本					評価・換算差額等				少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証 券評価差額金	土地再評 価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
平成18年3月31日残高	2,310	3,116	33,361	△ 177	38,610	560	△ 122	46	484	154	39,250
連結会計年度中の変動額											
剰余金の配当			△ 328		△ 328						△ 328
役員賞与			△ 30		△ 30						△ 30
当期純利益			944		944						944
株主資本以外の変動額合計						△ 122	—	15	△ 107	30	△ 77
連結会計年度中の変動額合計	—	—	585	—	585	△ 122	—	15	△ 107	30	507
平成19年3月31日残高	2,310	3,116	33,946	△ 177	39,195	437	△ 122	61	377	184	39,757

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

単体財務情報

●貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

科 目	当 期 (19.3.31現在)	前 期 (18.3.31現在)
資産の部		
流動資産	8,008	8,236
現金及び預金	4,535	4,553
受取手形	279	312
売掛金	1,091	1,143
有価証券	598	899
たな卸資産	1,279	1,155
その他	223	172
固定資産	31,378	31,203
有形固定資産	15,428	14,920
建物	4,480	3,980
土地	10,181	10,181
その他	767	758
無形固定資産	95	56
投資その他の資産	15,853	16,227
投資有価証券	5,984	5,819
関係会社株式	3,590	3,590
関係会社長期貸付金	4,703	5,332
その他	1,574	1,484
資産合計	39,386	39,440
負債の部		
流動負債	917	1,168
買掛金	385	331
未払金	190	196
その他	342	640
固定負債	782	753
退職給付引当金	178	186
その他	604	567
負債合計	1,700	1,921
純資産の部		
株主資本	37,370	37,080
資本金	2,310	2,310
資本剰余金	3,116	3,116
利益剰余金	32,121	31,831
自己株式	△ 177	△ 177
評価・換算差額等	315	438
その他有価証券評価差額金	437	560
土地再評価差額金	△ 122	△ 122
純資産合計	37,686	37,518
負債・純資産合計	39,386	39,440

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。
前期につきましては、会社法施行後の科目にて表示しております。

●株主資本等変動計算書（18.4.1から19.3.31まで）

（単位：百万円）

科 目	株主資本							評価・換算差額等			純資産 合計	
	資本金	資本剰余金	利益剰余金				自己株式	株主資本 合計	その他有 価証券評 価差額金	土地再評 価差額金		評価・換 算差額等 合計
		資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余 金合計						
				別途積立金	繰越利益剰余金							
平成18年3月31日残高	2,310	3,116	148	30,300	1,383	31,831	△ 177	37,080	560	△ 122	438	37,518
事業年度中の変動額												
剰余金の配当					△ 328	△ 328		△ 328				△ 328
役員賞与					△ 19	△ 19		△ 19				△ 19
当期純利益					638	638		638				638
別途積立金の積立				100	△ 100	—		—				—
株主資本以外の変動額合計									△ 122	—	△ 122	△ 122
事業年度中の変動額合計	—	—	—	100	190	290	—	290	△ 122	—	△ 122	167
平成19年3月31日残高	2,310	3,116	148	30,400	1,573	32,121	△ 177	37,370	437	△ 122	315	37,686

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

株式の状況／会社の概要

株式の状況（平成19年3月31日現在）

株式の総数

発行可能株式総数	60,000,000株
発行済株式の総数	22,274,688株

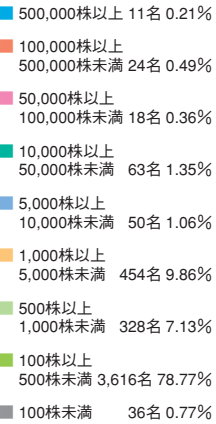
株主数

当期末株主数	4,600名
--------	--------

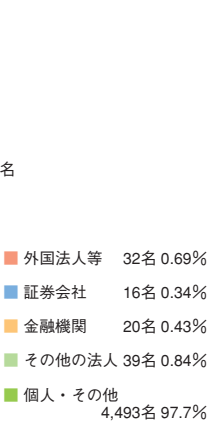
大株主

	持株数	議決権比率
サントレード株式会社	3,354,528 (株)	15.3 (%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	1,639,800	7.4
田中 秀明	1,496,976	6.8
鈴木 幹子	1,492,656	6.8
株式会社三菱東京UFJ銀行	899,200	4.1
エフビーエルオーピーシーブイエムアカウント	761,500	3.4
株式会社みずほ銀行	709,600	3.2
田中 信	603,720	2.7
佐藤 佐世子	594,192	2.7
田中 明三	549,640	2.5

所有株式数別株主分布



所有者別株主分布



会社の概要（平成19年3月31日現在）

商 号	株式会社ソフト99コーポレーション
設 立	昭和29年10月28日
本 社	大阪市中央区谷町二丁目6番5号
資 本 金	2,310,056,000円
従 業 員 数	180名
事 業 内 容	自動車用化学製品の製造及び販売

役員（平成19年6月27日現在）

代表取締役社長	橋 本 眞 三
取 締 役 会 長	田 中 明 三
常 務 取 締 役	土堤内 清 嗣
常 務 取 締 役	橋 本 欽 司
取 締 役	平 野 泰 彦
取 締 役	辻 平 春 幸
取 締 役	岸 田 靖 雄
取 締 役	西 川 保
取 締 役	渡 辺 泰
取 締 役	田 中 信
常 勤 監 査 役	赤 星 学
監 査 役	小 松 陽一郎
監 査 役	柏 岡 勲
監 査 役	松 本 二三男